

# 学習活動における具体的な指導・支援の充実に向けて

「本時の目標」の達成に向けて設定された様々な学習活動を子ども一人一人にとって意味のある活動にするためには、授業者が具体的な手立てを考えて授業に臨むことが大切です。ここでは、その手立てを考えるためのポイントを確認してみましょう。

## 指導・支援の充実に向けたポイント

○何のための学習活動であるかを確認する。

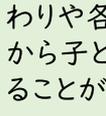
例) 考えを持たせる、考えを深める など



学習活動に適した学習形態になっているかを確認しましょう。

○子どもの実態から「つまずき」や「課題が早く終わる」などの状態が起こりうる場面を具体的に予測する。

例) 表に整理する学習活動において、文章から必要な情報を読み取ることにつまずくのでは。



子どもの学習活動の様子を予測するには、日常的な関わりや各種学力調査結果等から子ども一人一人を理解することが大切です。

○「つまずき」や「課題が早く終わる」といった状態を改善するための具体的な手立てを考える。

例) 着目させる語句、チャレンジ問題の設定 など



授業者が直接行う手立てや声かけなどを考えましょう。

～中丹プロジェクト21「みんなの笑顔」特別支援教育プロジェクト研究員の指導案から一部抜粋～  
算数 第4学年 単元名「変わり方」

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点
導入 5分	○問題を読む。	一斉	・題意を正しく理解するために、「まわり」の部分指でなぞらせる。→①
	○見通しを持つ。	一斉	・情報を整理するために、表にまとめると分かりやすかったことを確認する。 ・前時では式にすることができたことも確認する。→②
	○めあてを立てる。	一斉	・児童の言葉でめあてを立てる。→③
表を使って整理し、きまりを見付け、式にしよう。			
展開 33分	○表に整理する。	一斉	・まわりの長さの数え方を間違えないような工夫を紹介する。 ・初めの一部を埋めて、表の見通しを持たせる。→④
	○自分の考えをもつ。	個別	・見付けたきまり、式、説明などをメモさせ、自分の意見を持ってから話し合いに参加させる。 ・きまりを見付けることが困難な児童にはヒントカードを与える。 ヒントカードの内容 ①表を横に見ると? ②表を縦に見ると? ③段が1段増えると、まわりの長さはどうなる? →⑥
	○グループで考える。	グループ	・グループで考えを図や式にしてボードにまとめさせる。 ・グループの中で分からない人を残さないように、説明をし合うなどさせる。 ・表の数字が間違っている班がないか確認する。 ・表から気付いたことを言葉にすることが難しい班には、矢印や+〇〇などのメモでもよいことを伝える。→④ ・式にするときは、表を縦に見て考えるとよいことを思い出させる。→⑦ ・言葉の式から、記号を使った式に変形する。
	○交流する。	一斉	・児童の考えをもとに、いろいろな式に表せることを確認する。 ・数を当てはめて、式が正しいか確認する。
	○問題を提示する。	一斉	・式を使って解けることに気付かせる。 ・図や表をかくには時間がかかり、ミスも起こりやすいため、式が有効であることも確認する。→⑦ ・早く終わった児童には、○だんの場合の自作問題に取り組ませる。→⑧ ・自作問題も取り上げ、式を使うよさに気付かせる。→⑨

「指導上の留意点にある様々な視点」

- ①具体的に取り組むことを把握させ、見通しを持たせる
- ②既習事項とのつながりを実感させる
- ③本時の学びを自分ごとにする
- ④支援を要する児童への具体的な手立て
- ⑤次の活動へ参加させるための手立て
- ⑥子どもが自分自身の力で問題を解決するための具体的な手立てや補助発問
- ⑦本時の目標にせまる指導事項の明確化
- ⑧課題が早く終わった子どもへの手立て
- ⑨子どもの学びを深めるための手立て  
(統一的・発展的な考察)

子どもの様子を思い浮かべ、どんな手立てを行う必要があるのかを考えましょう。

京都府総合教育センター作成  
資料も参考にしてください。

「学習指導案ハンドブック」  
指導案記述具体例



「教えてセンタ君」  
授業づくりポイント紹介



発行：令和8年3月